

令和6年度 第1回 宗谷管内学力保障会議

目的：宗谷管内の児童生徒の学力保障に向けて、市町村教育委員会、学校、教育局等が一体となって取り組むための目標や方策等について協議を行い、学力保障の取組の充実を図る。

開催日：令和6年5月13日（月）9：30～11：30

方法：Web会議システム（Zoom）

参加者：宗谷管内市町村教育委員会教育長、宗谷校長会、稚内市校長会、宗谷公立学校教頭会、稚内市公立学校教頭会、北海道高等学校長協会道北支部、E B E協議会指定地域校、宗谷教育局

【挨拶】

宗谷教育局長 笠井 浩

教育局としては、年度初めの時期に、各市町村教育委員会教育長、校長会、教頭会の代表の皆様方と、学力向上の推進方策などについて共通理解を図ることは、学力保障プランで示す総括的指標の「全国調査の正答率、70%以上達成」を実現する上で、大変重要と考えている。

本日の会議では、「授業改革の推進」について、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組や、「家庭・地域、学校間の連携の推進」について、幼小・小中・中高の連携推進に向けた取組に対し、各市町村教育委員会や学校の取組を着実に進めていくための方策などについて、御意見を伺いたいと考えている。

【説明】

宗谷教育局教育支援課長 松浦 隆史

- ・本会議の趣旨等について
- ・令和6年度学力保障プランについて
- ・令和6年度宗谷授業改革推進会議、小中高の英語教育接続推進会議について
- ・令和6年度オンライン研修「SOYA ALL」について

協議1

- 授業改革の推進に向けた取組の方策
ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について協議

〔主な意見〕

- ・授業改革のヒントとなる先進事例などの提供があるとよい。
- ・地域の実態として、ICTの活用について、教員間で差が見られている。ICTを活用し、児童生徒一人一人に寄り添った支援が個別最適な学びにつながることから、活用を進めたい。
- ・多くの授業で正解主義的な授業が展開されている。学校や教員の授業観や発想の転換が必要である。
- ・ICTについては、児童生徒の深い学びにつながるように活用することが重要である。

協議2

- 家庭・地域、学校間の連携の推進に向けた取組の方策
小・中、高等学校の円滑な接続について協議

〔主な意見〕

- ・児童生徒が適切な生活習慣を身に付けるためには、学校と家庭の連携が不可欠であり、社会教育や保健福祉の担当と連携して取り組むことが大切である。
- ・地域の方々に学校の取組が伝わっていないことがある。学校が地域の方々にアピールし、取組を理解してもらうことが重要である。
- ・小中高の総合的な学習（探究）の時間において、地域のことを学ぶ取組を行っている。取組について発表する場に地域の方々の参加を呼びかけている。
- ・学校間の連携に向けて、教員が授業を参観し合う取組は行っているが、教育課程の接続について共通理解を図るなど、さらに連携を進めることが必要である。

まとめ

義務教育指導監 千代 隆志

- ・管内では、教員のアウトプットが中心の授業が散見される。児童生徒のアウトプットを意識した授業づくりが求められる。
- ・教員が教える場面は必要であるが、児童生徒が自ら考え、自らが学ぶ場面も重要である。

担当者から

本会議では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、動画の視聴を通して共通理解を図りました。学校教育指導訪問や各種研修会の中で、各学校に具体を伝えるなど、授業改革につながるようきめ細かな支援に努めていきたいと考えます。 (義務教育指導班主査 永野間 雅 博)